

小中一貫教育推進だより

# つながる



平成 24 年 12 月 27 日 No. 20  
十日町市教育委員会学校教育課



## 互いに学び合う

学校教育課小中一貫教育推進係  
嘱託指導主事 平野久美

平成 24 年も残り数日となりました。学校では、冬休みに入り、1年間の取組の振り返りをし、次年度の構想を練り始める頃かと思います。

2学期に「スクールアカウンタビリティ in みつけ 2012」に参加しました。見附市内の13小・中学校と公立保育園、市教育委員会の特色ある取組を、職員、児童・生徒による発表や映像で分かりやすく伝える会で、今回で10回目だということです。学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもたちを育てる「共創郷育」を推進する見附市ならではの、全国的にも珍しい、注目すべき催しといえましょう。発表はそれぞれに良さがあり、互いに学び合う素晴らしい機会であると思いました。また、発表という行為を通して、自分たちの取組の意味を再認識し、取組に自信と誇りを持つという効果もあることを、堂々とした発表の様子を見ていて感じました。

ベネッセ 2012 vol.3 には、岐阜市立東長良中学校の取組が紹介されています。この中学校では、生徒同士が学年を超えて切磋琢磨し合い、より良い学習の在り方を模索する中で、学習への意欲を高め、自律的な学習態度が育まれているということです。その代表的取組が「学習活動創造会」で、全学級の生徒の代表が集まり、各学級の学習に関する取組を共有するのだそうです。年5回、3つの学年で授業や活動の公開をする。それを全学級の代表が参観し、得たことをプリントや模造紙にまとめ、全校に周知していく。それをもとに各学級で生かせる方法や工夫を話し合う。その後、再び学級の代表が集まり、何を学び何を広めたかを発表し合い、その内容を自学級に持ち帰って共有する。参観前には「学活は普通の授業に比べて挙手が少ない。どのような声掛けや進め方をしているか参考にしたい。」、参観後には「～学級のような交流を取り入れたら学習が楽しくなった。」等の生徒の声が聞かれるといいます。このような素晴らしい学び合いが、中学生でもできるということに驚かされます。

さて、昨日は小中一貫教育モデル中学校区合同発表会を開催しました。校内研修に位置付けた学校もあり、参加者が100人を超える研修となりました。熱心な質疑。参会者は4モデル中学校区の実践から多くのことを学ばせていただきました。参加できなかった方々にも是非聞いて欲しい内容でした。2～4ページに、モデル中学校区の発表概要を掲載します。また、教育系ネットワークの「学校間共通」→「小中一貫教育」で進むと各モデル中学校区のフォルダがあります。ここには当日の資料が入っています。平成17年度から導入されている十日町市の素晴らしいシステムを、大いに活用したいものです。この冬休みには、ぜひ開いて見て、インターネット上でも互いに学び合う良さを感じてみてください。

しよっちゅう一貫

耳より情報

十日町市

## 「小中一貫教育モデル中学校区合同発表会」 を開催しました！

12月26日（水）、小中一貫教育モデル中学校区合同発表会を開催しました。1部は各モデル中学校区の発表、2部はモデル中学校区毎に分かれて質疑応答等を行いました。雪中、参加された皆さん、そしてご苦労されたモデル中学校区の皆さん、有難うございました。



以下、モデル中学校区の発表の概要についてお知らせします。当日の資料データは教育系ネットワークでご覧ください。

### <下条中学校区>

#### <取組内容>

「人間関係づくり」と「学力向上」の2つの視点から、23年度 of 取組の反省をもとに改善策を講じて以下の取組を進めた。取組毎に、児童・生徒、職員、保護者のアンケートで評価しながら改善を図っている。

##### ①人間関係づくり

- ・ジャンボ若葉班活動
- ・交流活動

小学校運動会への中学校1年生の参加・中学校体育祭への小学校6年生の参加  
小学校文化祭への中学校3年生の参加・中学校文化祭への小学校6年生の参加

- ・あいさつ運動

##### ②学力向上

- ・授業改善年間計画の作成、実践と授業研究
- ・NRTの追跡調査
- ・アンケートの工夫

#### <成果>

##### ①人間関係づくり

- ・互いのかかわり方や人間関係づくりに対する不安解消につながった。
- ・小学生は、中学生に対して「優しいお兄さん、お姉さん」という意識や憧れの気持ちをもつことが出来た。
- ・中学生は、小学生との交流を通して小学生の目標となろうと意欲的に活動した。
- ・職員は、小中互いの子どもたちとのかかわり方や特性を理解することが出来た。

##### ②学力向上

- ・下条の子どもたちに身に付けさせたい力や対策がはっきりした。

##### ③中1ギャップの克服

- ・小学校6年生は、中学校進学への不安解消や意欲向上につながった。

#### <課題・今後の方向>

行事や強調週間等の取組を、日々の生活に根付かせるようにすることが大切である。人権教育を視野に入れた、心を育てる活動を更に検討していく。

## ＜川西中学校区＞

### ＜取組内容＞

中学校区の課題から「人間関係づくり」「学力の向上」を目指し、以下の重点事業を中心に取り組んだ。

- ①子どもの交流促進
  - ・合同修学旅行・なかよし集会・親善水泳大会補助員・合同陸上練習会
- ②中学校への円滑な移行
  - ・いじめ根絶スクール集会への小学生参加・合唱コンクール参観・小中交流会
- ③学習を通しての接続
  - ・夏休み補充学習への小学校職員参加・出前授業・合同授業
- ④地域との連携を強化
  - ・かけはし懇談会「保・小・中・家庭の連携」
- ⑤職員研修
  - ・児童・生徒の人間関係づくり研修 ・ 9年間の社会性育成プログラム作り

### ＜成果＞

- ①不登校生徒の数や別室登校生徒数が減少した。
- ②小中交流の良さを感じる子が増え、中学へのスムーズな移行が進んだ。
- ③職員は相互理解が深まった。

### ＜課題・今後の方向＞

共有化が全ての取組における課題である。この点を大切にしながら以下のことを大切に進めていく。

- ①人間関係づくり
  - ・自己肯定感を高める。不適応生徒の更なる減少を目指す。
- ②学力向上に向けて
  - ・授業交流を進める。授業の約束の確認と実践を進める。
- ③小小連携
  - ・なかよし集会を継続発展させる。緑の少年団活動を5年生から導入する。

## ＜中里中学校区＞

### ＜取組内容＞

中学校区の現状である「学力の伸び悩み」「不登校の問題」「特別な支援を要する児童・生徒の増加」「体力・精神力、健康の課題」から、「中里の子育成プラン」を策定し、以下の3係6班(①教育課程②学力向上③社会性育成④特別支援教育⑤たくましさ向上⑥生活習慣定着)の組織で、それぞれに重点目標を設定しそれに向けた策を講じながら取組を進めた。

係	各班の重点
知育	①中学校進学への不安をもつ児童を減少させる。
	②アンダーアチーバーを減少させる。
徳育	③不登校児童生徒数を減少させ、新たな不登校児童生徒を出さない。
	④個別の指導計画に基づいて継続して支援を行うことのできる児童生徒の割合を増加させる。
体育	⑤進んで運動に取り組む児童生徒の割合を増加させる。
	⑥自律的な生活習慣が身に付いている児童生徒の割合を増加させる。

### ＜成果と課題・今後の方向＞

学期毎に、取組状況シートで成果と課題を確認しながら振り返り、改善を進めている。6班毎に2学期末時点での成果と課題・今後の方向を示しており、詳細については当日資料の「報告書」を参照してください。

## ＜松代中学校区＞

### ＜取組内容＞

松代中学校区の実態から、学力向上について以下の2つの視点から策を講じ、重点的に取り組んだ。

#### ①授業改善

・共通の学習規律・板書とノート・誤答の扱い・学習内容の系統への配慮

#### ②意欲付け・習慣形成

・「まつだいの子4カ条」への取組・家庭学習強調週間の一斉実施

### ＜成果＞

①校内分掌を生かした組織としたため、相互の情報交換により、各校の教育活動が活性化した。

②小中双方から、課題解決への糸口を見い出せた。

③地区PTA連絡協議会との連携により、家庭と一体となった学習習慣づくりへの一歩を踏み出すことが出来た。

④小小・小中共通の授業参観の視点を設定したことにより、授業改善への意識が高まりつつある。

### ＜課題・今後の方向＞

全員が共通認識をもって取り組むことの難しさがある。各プロジェクトの決定事項が校内に浸透せず生かされにくい現状がある。この課題を解決するため、地区の教職員が一堂に会し、提案に対して考えを伝え合い、検討する場を充実させていくことが必要である。



## モデル中学校区1月の活動予定



毎月ここに掲載している各モデル中学校区の活動予定は、どなたでもその活動を見ていただけるように紹介しているものです。モデル中学校区では、毎月公開授業や公開活動をしていることとなります。今月は紹介内容が少ないですが、年間を通じて、時間をみつけてぜひお出掛けください。その際には、当該学校へ一声かけてからお出掛けください。

日時	＜内容＞	会 場	見 どころ
21日(月) 10:15～	＜推進会議＞	松代中学校	・松代中学校区の校長・教頭が集まり、24年度の反省と25年度の取組の方向性について話し合います。
21日(月)～25日(金)	＜チャレンジウィーク＞	中里中学校区	・家庭学習の定着と基本的な生活習慣の見直しを図るため、保育園の年長児と中学校区の児童生徒がカードをもとに取り組みます。今年度3回目の取組です。

